

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

測定年度	令和5年度	学校コード	F10711010273	改編内容	研究科等の設置・増員・学部等の設置・増員（一般枠）
大学名	福島大学	設置区分	国立	事業計画名	課題対応型の実力を有した高度情報専門人材の育成
学校種	大学	都道府県	福島県		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（施設設置申請等）、下欄：教育現場の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加、取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施経緯などがある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通り実施できる限り、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業年度	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
			○年度自己評価	リストから選択してください。
令和5年度	【情報系組織の入学生員】 （修士課程）20名、（学士課程）80名 共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻 数理・情報システムコース（修士課程）10名 共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻 物理・メカトロニクスコース（修士課程）10名 共生システム理工学 数理・情報科学コース（学士課程）25名 共生システム理工学 経営システムコース（学士課程）25名 共生システム理工学 物理・システム工コース（学士課程）30名 3月：学士課程（共生システム理工学）の収容定員変更に係る認可申請 ⇒令和7年度に収容定員増と併せて理工コース（数理・情報科学コース、経営システムコース及び物理・システム工コース）を2コース（情報理工学コース及びメカトロニクスコース）に再編予定	【情報系組織の入学生員】 （修士課程）共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻：40名 うち、数理・情報システムコース：10名、物理・メカトロニクスコース：10名、計20名 （学士課程）共生システム理工学：160名 うち、数理・情報科学コース：25名、経営システムコース：25名、物理・システム工コース：30名、計80名 3月：学士課程（共生システム理工学）の収容定員変更に係る認可申請	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	①12月～ 3月 学士課程「実践情報工学プログラム」及び「学士課程入学定員増対応のための実習環境整備（情報専門実習室用コンピュータシステム一式導入：リース契約1年目）」 ② 9月～ 3月 学士課程コース再編準備：実践情報工学プログラム詳細準備 ③ 8月～ 1月 教員採用準備・選考【第1段階】（実践情報工学プログラムの詳細準備、大学院教育プログラム検討のため、R6年度着任を要する教員）	①12月～ 3月 実習環境整備：共生システム理工学実験棟コンピュータ実習室の改修（視聴覚システムの導入等）を実施した。 ② 9月～ 3月 高度情報専門人材育成推進室を開設し、学士課程コース再編や実践情報工学プログラム等の準備・検討を開始した。 ③ 8月～ 1月 教員採用準備・選考を実施し、R6年度着任の教員5名の採用を決定した。 令和6年度から令和14年度の期間に導入を予定している情報専門実習室用コンピュータシステムについてリースを予定していたが、費財の大幅な安値となることが判明したため、令和6年度並びに令和11年度に情報専門実習室用PCシステム一式を導入する予定に変更する。これに、リース費用に含まれる点検・保守料を費財・外注費に切り分け、情報専門実習室用PCシステム保守料として計上することとした。（R5、12.8承認）		
令和6年度	【情報系組織の入学生員】 （修士課程）20名、（学士課程）80名 ① 4月 学士課程「実践情報工学プログラム」及び「学士課程入学定員増対応のための実習環境整備（情報専門実習室用コンピュータシステム一式導入：リース契約1年目）」 ② 4月 新設教員着任（第1段階） ③ 4月～ 2月 学士課程コース再編準備：実践情報工学プログラム詳細準備 ④10月 学士課程・専攻別学生人材育成導入試（R7年度入試）実施（以降、毎年度実施） ⑤ 4月～ 1月 教員採用準備・選考【第2段階】（実践情報工学プログラムの実施、大学院教育プログラムの設計、大学院前倒し入定増を見据えた指導体制強化のため、R7年度着任を要する教員）		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和7年度	【情報系組織の入学生員】 （修士課程）20名、（学士課程）120名 4月 共生システム理工学 情報システムコース（学士課程）25名増員予定（入学定員75名） 4月 共生システム理工学 メカトロニクスコース（学士課程）15名増員予定（入学定員45名） ① 4月～ 3月 学士課程「実践情報工学プログラム」実施、博士前期課程「情報工学リスニングプログラム」・「情報工学高度実践力プログラム」準備 ② 4月 新設教員着任（第2段階） ③ 6月 大学院進学希望者を対象とした編入推薦入試（R8年度入試）実施（以降、毎年度実施） ④ 4月～ 1月 教員採用準備・選考【第3段階：特任教員】（大学院の実習体制整備・指導体制充実のため、R8年度着任を要する特任教員） ⑤ 4月～ 3月 情報専門実習室用コンピュータシステム一式運用：リース契約2年目		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和8年度	【情報系組織の入学生員】 （修士課程）20名、（学士課程）120名 6月 修士課程（共生システム理工学研究科）の令和9年度定員増を概算要求事項に記載予定 ① 4月～ 3月 学士課程「実践情報工学プログラム」実施、博士前期課程「情報工学リスニングプログラム」・「情報工学高度実践力プログラム」詳細準備 ② 4月 新設教員着任（第3段階：特任教員） ③ 8月～ 2月 初等中等教育段階との連携事業との連携事業 ④ 4月～ 3月 情報専門実習室用コンピュータシステム一式運用：リース契約3年目		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和9年度	【情報系組織の入学生員】 （修士課程）40名、（学士課程）120名 4月 共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻 情報理工学コース（修士課程）10名増員予定（入学定員20名） 4月 共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻 メカトロニクスコース（修士課程）10名増員予定（入学定員20名） ① 4月～ 3月 学士課程「実践情報工学プログラム」実施、博士前期課程「情報工学リスニングプログラム」・「情報工学高度実践力プログラム」実施 ② 9月～ 3月 学士課程「実践情報工学プログラム」一次評価・問題点抽出 ③ 4月～ 3月 情報専門実習室用コンピュータシステム一式運用：リース契約4年目		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和10年度	【情報系組織の入学生員】 （修士課程）40名、（学士課程）120名 ① 4月～ 3月 学士課程「実践情報工学プログラム」実施、博士前期課程「情報工学リスニングプログラム」・「情報工学高度実践力プログラム」実施 ② 3月 学士課程の入学後の学年進捗（卒業率）に合わせた進路動向の即時分析 ③ 8月～ 2月 地域教育機関との連携事業に関する状況分析（一次）、最新ニーズの集約 ④ 4月～ 3月 情報専門実習室用コンピュータシステム一式更新：リース契約5年目		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和11年度	【情報系組織の入学生員】 （修士課程）40名、（学士課程）120名 ① 4月～ 3月 学士課程「実践情報工学プログラム」実施、博士前期課程「情報工学リスニングプログラム」・「情報工学高度実践力プログラム」実施 ② 7月～ 3月 学士課程「実践情報工学プログラム」効果検証・見直し ③ 9月～ 3月 博士前期課程「情報工学リスニングプログラム」情報工学高度実践力プログラム」一次評価 ③ 3月 博士前期課程定員増の学年進捗に合わせた進路動向の即時分析 ④ 4月～ 3月 情報専門実習室用コンピュータシステム一式更新：リース契約1年目		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和12年度	【情報系組織の入学生員】 （修士課程）40名、（学士課程）120名 ① 4月～ 3月 学士課程「実践情報工学プログラム」実施、博士前期課程「情報工学リスニングプログラム」・「情報工学高度実践力プログラム」実施 ② 4月～ 3月 学士課程の入学後の学年進捗（卒業率）に合わせた進路動向の即時分析 ③ 3月 学士課程の入学後の学年進捗（博士前期修了率）に合わせた進路動向の即時分析 ④ 4月～ 3月 情報専門実習室用コンピュータシステム一式運用：リース契約2年目		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和13年度	【情報系組織の入学生員】 （修士課程）40名、（学士課程）120名 ① 4月～ 3月 学士課程「実践情報工学プログラム」実施、博士前期課程「情報工学リスニングプログラム」・「情報工学高度実践力プログラム」実施 ② 4月～ 3月 博士前期課程「情報工学リスニングプログラム」・「情報工学高度実践力プログラム」効果検証・見直し ③ 4月～ 3月 地域教育機関との連携事業に関する状況分析（二次）、改善策案の検討 ④ 4月～ 3月 情報専門実習室用コンピュータシステム一式運用：リース契約3年目		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和14年度	【情報系組織の入学生員】 （修士課程）40名、（学士課程）120名 ① 4月～ 3月 学士課程「実践情報工学プログラム」実施、博士前期課程「情報工学リスニングプログラム」・「情報工学高度実践力プログラム」実施 ② 4月～ 3月 高度情報専門人材育成全体の検証・評価、支援開始終了後の事業展開等検討 ③ 4月～ 3月 情報専門実習室用コンピュータシステム一式運用：リース契約4年目		○年度自己評価	リストから選択してください。

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福島大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

- 該当しない場合は、チェックしてください。
- i) 学生募集停止中の大学
- | | |
|------|--|
| 該当無し | ☒ チェック |
|------|--|
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
- | | |
|------|--|
| 該当無し | ☒ チェック |
|------|--|
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
- | | |
|------|--|
| 該当無し | ☒ チェック |
|------|--|
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
- | | |
|------|--|
| 該当無し | ☒ チェック |
|------|--|
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学
- | | |
|------|--|
| 該当無し | ☒ チェック |
|------|--|

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- | | | |
|---|---|--|
| ① | 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。 | |
| | 確認を受けている | ☒ チェック |
| | 対象に該当しない | ☐ チェック |
- | | | |
|---|---|--|
| ② | 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。 | |
| | 計画通りに進んでいる | ☒ チェック |
- | | | |
|---|---|--|
| ③ | 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。） | |
| | 計画通りに進んでいる | ☒ チェック |
- | | | |
|---|---|--|
| ④ | 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。 | |
| | 計画通りに進んでいる | ☒ チェック |
- | | | |
|---|---|--|
| ⑤ | 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。 | |
| | 計画通りに進んでいる | ☒ チェック |
- | | | |
|---|---|--|
| ⑥ | 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）、含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。 | |
| | 計画通りに進んでいる | ☒ チェック |
- | | | |
|---|---|--|
| ⑦ | 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。 | |
| | 計画通りに進んでいる | ☒ チェック |
- | | | |
|---|---|--|
| ⑧ | 教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例校）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。） | |
| | 既設の情報系分野に係る研究科等を有する | ☒ チェック |
- | | | |
|---|--|--|
| ⑨ | 機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。 | |
| | 計画通りに進んでいる | ☒ チェック |
- | | | |
|---|---|--|
| ⑩ | 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。 | |
| | 計画通りに進んでいる | ☒ チェック |
- | | | |
|---|--|--|
| ⑪ | 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中目録期間終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。 | |
| | 計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない | ☒ チェック |
- | | | |
|---|-------------------------------------|--|
| ⑫ | 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。 | |
| | 計画通りに進んでいる | ☒ チェック |
- | | | |
|---|--|--|
| ⑬ | 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。 | |
| | 認定を受けている、又は対象に該当しない | ☒ チェック |
| | 認定を受ける計画が進んでいる | ☐ チェック |

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福島大学
-------------	-------	-----	------

⑬	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
	認定を受けておらず申請する意向もない	■ チェック	

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できおり、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
データサイエンス教育の一環として、福島市など自治体との連携した地域課題解決のための実践型演習（例えば、データサイエンス実践演習）を実施している。その中で、自治体から提供された実際データを分析し、最終的には学生グループから福島市長に対する政策提言「市長プレゼン会」を実施している。今後は、これら実践型演習を更に発展させ、後輩学生に対する指導・助言役を含めて大学院生を積極的に参画させると、「課題即応型の実践力を有した高度情報専門人材育成」の充実に資する。 また本学では、福島県の現業課題に対応する研究を「forプロジェクト」として大学をあげて推進している。その中で、情報人材育成の基盤となる「福島型STEAM教育の開拓」では、福島県内小企業家同友会との協議を重ねながら、プロジェクトを遂行している。本取組では、これらプロジェクトに大学院生を参加させることで、大学院生の実践力養成と、後に続く人材の裾野拡大をあわせて推進する。 さらに、大手情報通信企業と連携し、令和5年度から情報人材育成の一環として「大学院進学者を対象とした給付型奨学金制度」を開設した。	データサイエンス教育の一環として、実践型演習（データサイエンス実践演習）では、福島市と連携して、実際の課題やテーマに基づき政策提言・施策立案に取り組み、福島市長への報告会を実施した。 福島大学forプロジェクト「福島型STEAM教育の開拓」では、福島県立福島高等学校の探究活動中間発表会への大学院生派遣、福島県立あさか開成高等学校との交流会などを実施した。 大手情報通信企業との連携による「大学院進学者を対象とした給付型奨学金制度」の運用を開始し、R5年度は5名に奨学金を給付した。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
福島大学の全学的な取り組みとして、「福島市子どもの夢を育む施設こむこむ」に連携し、小中学生の科学理解増進と本学学生の教育成果を発信することを目的に「サイエンス屋台村」を実施してきた。共生システム理工学研究科教員と大学院生・学芸員が、地域の子供達に実験・実演を楽しむ体験させる「屋台」を開き、自然科学系に対する子供の興味増進に寄与してきた（新型コロナウィルス感染症で中断したが、5期移行に伴い令和5年度から再開予定）。本取組では、情報系分野の「屋台」を拡大・拡充する予定である。 また、SSH（後継事業含む）指定校に、共生システム理工学研究科の大学院生を派遣し、高校生による研究発表に対する助言・指導に寄与する取組を実施してきた。高等学校から好評を得ており、本取組では、情報系大学院生の派遣を積極的に強化する。	小中学生の科学理解増進と本学学生の教育成果を発信することを目的とした取り組みとして、「福島市子どもの夢を育む施設こむこむ」に連携して、福島大学わくわくJr.カレッジ（2023年8月）を実施した。この中で、子供たちへの説明や実演に本学の大学院生が参画した。 福島県立福島高等学校SSH事業「福島大学探究訪問（2023年10月）」に際して、福島大学の大学院での学び等に関する高校向けのレクチャーや質疑応答役として本学の大学院生が寄与した。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和7年度入試（令和6年度実施）において、学士課程（共生システム理工学類）総合型選抜で、将来、理系の教育に関する職に従事することを志す女性志願者について、32名の募集人員のうち最大8名を優先して合格とする「理系教育女性人材育成枠」を設ける。（予告済み） また、入学料負担を軽減し、博士課程への進学意欲を損なわないようとするため、博士前期課程進学時の入学料免除を前提とした「高等専門学校編入推薦入試」を実施する予定である。 大学院入試では、社会人特別選抜を実施しており、学歴だけでなくそれ以外の専門的実務経験等の個別審査により出願資格を認定する制度を運用している。さらに、社会人や他分野学生の情報工学領域への転換を支援する「情報工学リキンププログラム」を実施し、転換科目群の履修による単位を一定の範囲内で博士前期課程の修了に必要な単位数に含めることを認めることで、社会人の志願者取り込みを図る。	学士課程（共生システム理工学類）総合型選抜において、将来理系の教育に関する職に従事することを志す女性志願者を対象とする「理系教育女性人材育成枠」を設け、選抜実施に向けた検討・準備を実施した。 高等専門学校からの編入学生が大学院に進学する場合の入学料を減免する制度について検討した。高等専門学校卒業見込み者を対象とする既存の編入学推薦入試に関わる「支援制度」として整備する方向で検討している。 大学院入試では、社会人特別選抜を実施しており、学歴だけでなくそれ以外の専門的実務経験等の個別審査により出願資格を認定する制度を引き続き運用している。また、社会人や他分野出身学生の大学院における情報工学領域への転換を支援する情報工学リキンププログラムについて、実施に向けた検討を行った。	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
福島工業高等専門学校と「友好協力及び学術交流に関する協定」を締結し、産学人材育成の共同事業など、研究・教育両面で連携してきた。また、同高专から共生システム理工学類への編入学生を継続的に得ており、学生の目標を含めて強い関与を有する。本取組では、大学院進学希望者を対象とした「高专編入学推薦入試」を新設し、高専・学士課程・大学院の接続を含めた連携強化を進める。 また、ACF（アカデミア・コンソーシアムふくしま）や科目等履修制度を活用した地域大学との学生の相互聴講を実施してきた。今後は、情報系授業科目への学生受入れを強化し、本取組の成果を積極的に地域還元する。 加えて、共生システム理工学類／研究科では、海外の大学との学生相互派遣を積極的に実施している。一例として、コロラド州立大学との連携協定に基づき、学生の現地派遣・福島大学への受入れを展開してきた。東日本大震災以降、環境放射能に関する派遣及び受入れで実績をあげた基盤を活かし、高度情報専門人材育成事業では情報系領域での連携を強化する。	R5年度は、高等専門学校からの編入学生6名が入学した。また、福島工業高等専門学校との「友好協力及び学術交流に関する協定」に基づき、産学人材育成の共同事業など、研究・教育両面で引き続き連携している。さらに、高専・学士課程・大学院の接続を考慮した施策として、高等専門学校からの編入学生が大学院に進学する場合の入学料を減免する制度について検討した。 ACF（アカデミア・コンソーシアムふくしま）や国際共修（ICL-Channels）の単位互換制度による特別聴講学生（単位互換学生）として、R5年度は、7名の学生を受け入れた。また、コロラド州立大学との連携協定に基づいて、R5年度は、同大学から4名の特別聴講学生を受入れた。	

大学名	福島大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

2-2. 修士課程

[illegible]

大学名	福島大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

3-3.学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	945	945																	
		入学者数	人	1,012	998																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	945	945	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	1,012	998	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.07	1.06	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	
	収容定員等	収容定員(C)	人	3,840	3,840																	
		編入学定員	人	30	30																	
		在籍者数(D)	人	4,093	4,111																	
		編入学者数	人	39	30																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.07	1.07																	

4.外部資金の状況（全学）

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	924,896																		

特記事項

○共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻 数理情報システムコース及び物理・メカトロニクスコースの令和6年度の「その他の学期」の入学定員0人とは、若干名を意味している。